

ベンタゾンの効果が他の茎葉処理剤に比べて低かった。また、2017年試験に比べていずれの茎葉処理剤も効果が低かったが、表-4に示すように処理時のミチヤナギの葉齢が進んでいたことに起因していると考えられる。

以上のように、2か年の試験結果からミチヤナギに対する除草効果には除草剤間差が認められた。播種後土壌処理剤ではプロスルホカルブの効果が低く、トリフルラリンの効果が高かった。広葉雑草に効果が高いとされるリニュロンやジフルフェニカンが配合された除草剤については、除草効果に年次間差が認められた。これらの除草成分に対するミチヤナギの反応の詳細は明確ではなく、また混合剤であることから年次間差の要因については判然としない。

トリフルラリンの効果は比較的安定して高かったが、暖地の水田裏麦作で

は主要イネ科雑草であるスズメノテッポウについて抵抗性バイオタイプが確認されており、播種後土壌処理剤としてのトリフルラリンの利用は少なくなっている。抵抗性スズメノテッポウ対策として、プロスルホカルブ等の新規除草剤が開発され、現在ではフルフェナセット・ジフルフェニカンの使用が増えている。フルフェナセット・ジフルフェニカンはスズメノテッポウを含むイネ科雑草に効果が高く、幅広い広葉雑草にも高い除草効果を示すが、ミチヤナギに対しては2か年とも残草が認められた。近年、ミチヤナギが特異的に残草する圃場が散見されるが、残草圃場ではフルフェナセット・ジフルフェニカンを連年使用しており、本試験の結果と矛盾しない。

土壌処理剤での防除が不十分だった場合には生育期に茎葉処理剤で防除す

る必要がある。ベンタゾンはタデ科雑草に対して除草効果が高いとされるが、ミチヤナギに対しては他の茎葉処理剤に比べて除草効果が低かったことから、使用する除草剤には注意が必要である。また、茎葉処理剤処理時のミチヤナギの葉齢にも注意が必要である。処理時の最大葉齢が3～4葉の2017年試験では高い除草効果が認められたが、最大葉齢が5～6葉の2018年試験では残草が認められた。雑草の葉齢進展は気温の影響を強く受けることから、暖冬年には早めの処理を心掛ける必要がある。

引用文献

荒井正雄 1961. 水田裏作雑草の生態学的研究. 関東東山農業試験場研究報告 19,1-182.

田畑の草種

蚤の衾 (ノミノフスマ)

ゲーテの代表作である長編戯曲「ファウスト」。その中にこんなお話がある。

昔々あるところに王様がいた。その王様は大きな蚤を飼っていた。あたかも自分が生ませた子どものように可愛がっていた。

ある時仕立屋を呼んで、この蚤の若殿が召すような上着とずぼんを仕立てるように命令した。命が惜しければずぼんに襷ができないように、と。ピロードや絹で仕立てられたこの服を蚤の若殿はうまく着こなして宮殿中を闊歩した。この仕立下ろしの上着には紐がついて十字章も下げられていた。まもなく若殿は大臣を言い付き大きな勲章もぶら下げ、蚤の兄弟たちもそれぞれ立派な役につき、一族揃って宮殿をぞろぞろ歩いた。

宮殿の文官、武官、貴婦人を初めお妃様やお仕えする女官達でも、参内すれば蚤の大臣に指示された。蚤たちにちくちく刺されたり齧られたりしてもそれを抑えてぶつりと潰したり刺さ

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

れたところを搔いたりしてはいけない、と。

その蚤たちが休む時、寝室の天蓋付きのベッドの中に緑色した小さな葉っぱが2枚おかれていた。蚤たちはこの小さな葉の間に潜り込んで眠っていた、ということである。この葉がノミノフスマの葉である。

ノミノフスマはナデシコ科ハコベ属の一年草～越年草。全国の野原や畑、田んぼの畦などに生え、やや湿った所でよく生育する。茎は叢生し高さは10cmから30cm、やや立ち上がりながら分枝する。春から初夏にかけて直径5～12mmの白い花をつける。花弁は5枚であるが根元近くまで深裂して10枚に見える。柄のない対生の葉は長楕円形で、茎の先では対生の葉が茎を抱くように向き合う。この間だと「蚤」も寝やすからうと「蚤の衾」と名がついた。

「衾」とは寝るときに使う夜具のことを言う。